

「関東大震災映像デジタルアーカイブ」に2作品追加！

『帝都の大震災 大正十二年九月一日』『東京大震災』

公開のお知らせ



左：『帝都の大震災 大正十二年九月一日』1923年 避難民でごった返す鶯谷駅、日暮里駅とその周辺
右：『東京大震災』1923年 上野駅周辺の焼跡を望む

お世話になっております。このたび、WEBサイト「関東大震災映像デジタルアーカイブ」（制作：国立映画アーカイブ、国立情報学研究所）に、第3弾作品を公開する運びとなりました。今回は、以下の2作品を公開します。

『帝都の大震災 大正十二年九月一日』（14分 | 1923年 | サイレント | 白黒）

【作品概要】 震災前のイメージカットから始まる構成で、語り調の中間字幕が印象的な一篇。撮影場所は上野、浅草周辺が多いが、主に震災当日と思われる火災や強風の激しさに度肝を抜かれる。『関東大震災』[返還映画版]や『東京大震災』との間で多くのカットが重複しているが、編集にはかなりの違いが見られる。

『東京大震災』（30分 | 1923年 | サイレント | 白黒、一部染色）

【作品概要】 震災記録の映像に日本語、英語の字幕が挿入され、外国人向けに公開されたと思われる作品。火災炎上中から鎮火後にかけての前半は、『関東大震災』[返還映画版]とカットはほとんど重複し、編集も酷似している。地震発生から数日後と思われる後半は、人々を観察するカメラにも落ち着きが見られ、異なるソースの映像を使用したものと見られる。

公開日時：2021年12月24日（金）16時

「関東大震災映像デジタルアーカイブ」とは (<https://kantodaishinsai.filmarchives.jp/>)

★1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災について、当館が所蔵する関連の映画フィルムなどの資料を公開するWEBサイト。

★「撮影場所」、「シーン（写されている事象）」で分類された「クリップ」単位での検索・閲覧が可能で、作品のディテールをより深く、横断的に見るできるようになっています。

★関東大震災発生から100にあたる2023年9月1日までに、2年をかけて、当館で所蔵する関東大震災関連の全ての映画フィルムの公開を目指しています。

つきましては、ぜひとも本サイトのご紹介をご検討いただきますよう、お願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせ】

国立映画アーカイブ「関東大震災映像デジタルアーカイブ」広報担当
電話：03-3561-0823/FAX：03-3561-0830/E-mail：kanto1923@nfaj.go.jp

『帝都の大震災 大正十二年九月一日』『東京大震災』クリップ一覧



『帝都の大震災 大正十二年九月一日』
場所：新宿／シーン：倒潰・損壊

神田川が大きく蛇行する大曲（現在の新宿区新小川町）附近の道路に、激しい地割れが生じている。



『帝都の大震災 大正十二年九月一日』
場所：中央／シーン：倒潰・損壊

医師・社会運動家の加治時次郎が木挽町で開業していた平民病院（前・加藤病院）が、地震により大きな被害を受けた。



『帝都の大震災 大正十二年九月一日』
場所：台東、荒川／シーン：避難

上野駅の焼失により東北方面との発着駅となった日暮里駅や隣駅の鶯谷駅周辺は、東京から逃れる多数の避難民でごった返した。



『東京大震災』
場所：台東／シーン：避難

上野の山へと逃れるため、家財道具を山積みした人、自転車を漕ぐ人、肩で荷を担ぐ人、はしゃぎまわる子どもなど、人それぞれに避難する姿が描かれる。



『東京大震災』
場所：千代田／シーン：焼失,倒潰・損壊,避難

神田駅の高架上から、左にパンニングするカメラが周囲の焼跡を映し出す。



『東京大震災』
場所：台東／シーン：焼失,倒潰・損壊

上野駅西側の斜面から、左にパンニングするカメラが、焼失した駅構内から下谷方面を映し出す。



『東京大震災』
場所：千代田／シーン：倒潰・損壊,復旧

日本橋川に架かる神田橋が地震により墜落し、仮設の橋を人々が列をなして渡っていく。



『東京大震災』
場所：台東／シーン：避難生活の場

周りを焼跡で囲まれた上野・不忍池畔に避難生活の場を求めた人々や子供たちの姿が描かれる。

【本件に関するお問い合わせ】

国立映画アーカイブ「関東大震災映像デジタルアーカイブ」広報担当
電話：03-3561-0823/FAX：03-3561-0830/E-mail：kanto1923@nfaj.go.jp